



食品の生産流通と消費者の食品選択に関する研究

Keywords: 農畜水産業、フードシステム、消費者、経営、流通、マーケティング

● 研究概要

食品の生産・流通・消費の構造や農畜水産業の経営、消費者の食品選択行動に関する研究を行っています。食品を安定的に生産するための経営学的条件や効率的に供給するための食品事業者の在り方、農村地域の持続的発展に向けた方策といった観点から、現代社会における人々と食品の関係を検討しています。

● 研究テーマ

・消費者の食品評価や食品選択行動に関する研究

食品のなかには、生物多様性保全や遊休農地の発生抑制、地域農業の維持、食料自給率の向上など、農業や社会への影響を考慮した方法で生産されているものがあります。しかし、その効果を具体的に実感することはできないので、宣伝や販売方法には工夫が必要です。

なかでも、国産のコメを飼料として育てた鶏卵に注目し、消費者は食料自給率の向上や遊休農地の発生抑制といった側面を含めて、商品をどのように評価しているのか、鶏卵商品の選択時にはどのような行動をとっているのか、さらには、販売者は消費者に対してどのような情報提供を行うのが効果的なのかを明らかにしています。(論文1、2、3)

・食料生産・管理への新規技術の導入に関する経営学的研究

農畜水産物や食品の管理の場面において、IoTをはじめとする新規技術が次々と開発され、急速に実用化が進められています。しかし、使用者の技量や使用する農場の条件等によっては、収益性の向上や作業性の改善など、必ずしも目指した結果が得られるとは限りません。

特に小規模な生産者や事業者が新規技術を導入する場面に着目し、その技術力を最も発揮できる環境や条件を事業者の経営面から明らかにしています。(論文4、5)

・地域特性を生かした農畜水産物の生産とマーケティングに関する研究

日本では、その地域に独自の気候や土壌条件を生かした農林水産業が多数営まれています。しかし、特に離島などにおいては小規模で零細に行われることも多く、生産・流通・販売の条件が不利になりがちです。地域の独自性ある農畜水産物をどのように生産・管理し、どのような方法で販売するのが商品の魅力をより高めることにつながるのかを、主に農家経営や商品のマーケティング面から検討しています。(論文6)



所属 食品安全工学科
食品システム学研究室
助教
氏名 山野 薫
YAMANO Kaoru



図1. 一般的な餌を食べて育った鶏の卵(左)と国産のコメを食べて育った鶏の卵(右)



図2. 卸売市場におけるタブレット端末を利用した水産物の取引



図3. 沖永良部島産のテッポウユリと冷蔵設備付き輸送用コンテナ

● 論文・特許等

【論文】

1. 飼料用米を利用した鶏卵のフードシステム－生協を中心とした取り組みの場合, 農業研究, 第34号, p.361-381 (2021)
2. 社会貢献型農産物に対する消費者の意識と購買時の評価－コープしがが取り組む飼料米給与鶏卵を題材に－, 協同組合研究, 第35巻第2号, p.76-89 (2016)
3. 飼料米給与鶏卵の商品属性に対する購入者の認識－「社会貢献要素」を中心に－, 農業経営研究, 第55巻第3号, p.1-13 (2017)
4. 鉄コーティング直播を利用した飼料米生産の可能性の実証－滋賀県大津市の家族経営農家を事例に－, 農林業問題研究, 第49巻第2号, p.298-303 (2013)
5. 沿岸漁業由来水産物における漁獲・陸揚げ・販売情報の漁業管理への活用可能性－長崎県の漁業による記録の電子化とトレーサビリティを事例に－, 日本海洋政策学会誌, 第9号, p.82-93 (2019)
6. 離島における地域特性を生かした農水産業, くらしと協同, 第33号, p.12-15 (2020)